

[008]九州大学基幹教育院LAセンターインタビューシリーズ : みつばトーク

<https://hdl.handle.net/2324/4763140>

出版情報 : みつばトーク. 8, pp.1-, 2021-07. Kyushu University Learning Analytics Center
バージョン :
権利関係 :



みつばトーク



2018年9月よりインタビューシリーズ「みつばトーク」を開始しました。

授業等でどのようにM2Bシステムを活用されているかについて、様々な方々にお話を伺っていきます。

M2Bシステムを使ったことがある方にもない方にも参考になるような情報をお届けしていきます。

コロナ禍のオンデマンド授業で Moodleを活用しました

経済学研究院
産業企業システム部門
鷺崎 俊太郎 准教授

■ 簡単に自己紹介をお願いします

近世、近代日本経済史の中でも江戸・東京を事例に近世・近代の都市の地代・地価・利子率などに興味を広げています。九大着任以前には東京の三菱資料館の研究者として勤務していたので、三菱をはじめとする財閥の経済史にも興味を持っています。

「歴史は講義室で起きるんじゃない。現場で起きるんだ！」をモットーとして郊外に出て博物館・資料館・史跡などをめぐることに取り組んでいます。



■ 現在どのような授業を担当していますか？

経済学部の中では日本経済史という科目を専門で担当しています。それ以外には1～2年生向きの基本科目として経済史も私の担当です。あと基幹教育科目の中の文系ディシプリンで経済史入門というのがあり、何人かのローテーションで行いますが、私に回ってくることもあります。

今年は基幹教育の中では課題協学科目を担当しました。その他いろいろ演習であるとか、大学院の授業であるとかを担当していますが、学部に関してはこれらが主です。

■ 授業の中でM2Bシステムを使って行っていることがあればご紹介いただきたいのですが

前期、日本経済史という3～4年次向けの経済の専門科目がまさにオンライン必須になりましたので、Moodleを使ってやらせていただきました。受講生は180人台でした。もっと多い講義もありますが、比較的大教室で行う授業です。

—— Moodleを使い始めたきっかけは何ですか？

今回全面的に授業をオンライン化するにあたって、まず経済学部の中で統一したガイドラインを4月の月上旬に作ったんですね。それは経済学部のオンライン特設チームという、オンラインに関して詳しい先生方が6～7人で集まって、本部から連絡がいつ来ても大丈夫なように対応しておいたんです。そのガイドラインの中にMoodleを使うことが推奨されていました。それまでMoodleは僕も全く使っていなかったんですが、まずMoodleという存在があるということが学部の中で各教員に認知され、本格的に授業でMoodleを使ってやっていこうということを意識するようになっていきました。特設チームの先生方がすごく率先して動いてくださって、インフラで言うと線路は敷いてくれました。そこで、どういう電車を走らせればいいのかというのがそれぞれの授業を担当している教員の役割として出てくるようになり、安全運転しながら便利に使わせていただいたというところなんです。

— Moodle を使った授業のやり方として、先生がご担当された授業はどういった形でしょうか？

僕はオンデマンドにこだわりました。一回90分の授業を毎週家で録画して、それを約20分ずつに4分割して一本の動画を Moodle のファイル追加機能を使ってアップしました。あとはバックアップとして YouTube を使いました。それにアップをして Moodle が仮に落ちても YouTube で、YouTube がうまく見れなくても Moodle でと、とにかく学生には授業が見られないということがないように、いつでもどこでも何度でも見られるようなシステムにしていました。

準備は大変でしたけど、また同じ授業を開講する時にうまく使えるようにということで、まあ投資という意味ではオンデマンドにこだわった。その投資を回収しなければいけないけどね、これから2年後3年後とね（笑）

— 学生さんの反応はいかがでしたか？

僕の授業に関して学生からはうまく行ったという感じで割と良い評価をもらう事ができました。ルーティンで14回やったので、学生からすると突然テストが入ってくるとか突然課題が与えられるとか、いわゆる突然性が無かったから、オンラインの中で受けやすかったという言葉をもたらしたのはよかったかなと思ってますね。

— Moodleでおすすめの使い方があれば教えてください

お勧めできるほど多分 Moodle を使いこなしてないと言うか、ましてや Mahara と BookQ の方はもっと使えてないので、むしろこちらから教えていただきたいです。

ただ、後期に課題協学の授業をやることによって、前期日本経済史の授業では使うことができなかった機能やファイルの投稿のシステムも、ようやく使える余裕が出てきました。全体的なアナウンスは「フォーラム機能」で、グループ研究で作成したパワーポイントのファイルは「課題提出機能」を使い、各セット最終回で行う班ごとの発表会では順番を決めるために各班で Moodle から電子あみだくじサイトのリンク先も利用しました。仮に遠隔が主体の班でもみんなで相談しながら発表の順番をあみだくじで決めてもらいました。課題協学だから1年生向けにちょっとエンターテイメント的な要素も入れようと思ってみたくです。

また、この科目は特にオンライン参加を選択した受講者一人ずつへのケアが必要であったため「メッセージ機能」は極めて有益でした。

■ これからM2Bを使ってみたいと思っている人にメッセージをお願いします

M2Bに限らずオンライン授業についてなんですけど、コロナ禍がいつ終息するのかわからない状況ですが、収束しても本当に元の対面授業を中心に戻るとか言うと、僕は多分戻らないと思っています。どの授業を受けるにせよ、統一したその情報源・フォーマットがある事が大事で、その役割が Moodle に今後も課されていくのかなと思います。Moodle は対面式が今後復活したとしても、すごく重宝されていくんじゃないかと思っています。

情報の受信源・発信源という意味で Moodle はそれを束にしてくれるであろうと思います。そういう意味で仮に今後対面授業が復活してもオンライン授業が継続しても、そういう機能として Moodle は束にしてくれる役割を十分に発揮してほしいです。M2Bを使ってみたいという先生達にとっては、そこがすごく大事になってくる役割じゃないかなと思いますね。

〔聞き手：木實新一（基幹教育院）〕

*本稿の内容に興味をお持ちの方は下記参考文献を是非ご参照ください。

〔1〕 鷲崎 俊太郎, 「新型コロナウイルス感染症対策下におけるオンライン授業の成果と課題：九州大学経済学部「日本経済史」における学生の受講実態とメッセージ」, 経済学研究, 87, 5/6, pp.69 - 93, 2021年3月30日
<https://doi.org/10.15017/4377820>

